

機動建設工業

ジェイ・ブリッジから独立

事業再生から成長戦略へ

機動建設工業は、外資系ファンドの支援を受け、ジェイ・ブリッジ傘下から独立する。桐野誠和社長を始め、ジェイ・ブリッジから派遣された役員は、大部分が残り、引き続き同社の経営に当

たる。ジェイ・ブリッジは、現在も機動建設工業の発行済み株式の6%弱を保有しているもようだが、今後も資本関係を続けるかは未定だ。新スポンサーを得て、事業再生から成長戦略に軸足を移す。

世界第5位の商業銀行である仏・クレディ・アグリコール系のアジア向け投資会社が組成した日本企業特化型投資ファンド「CLSAサンライズキャピタル」が、第三者割当増資を引き受けた。

総数が増えたことから、所有株式数の割合が低下した。事業再生支援が一定の成果を得たと判断し、独立を支援することにした。

桐野社長を含め派遣さ

れていた6人のうち5人が、ジェイ・ブリッジを離れ（1人はジェイ・ブリッジ顧問を兼務）、機動建設工業の経営に専念する。また、CLSAサンライズからは、3人の社外役員を受け入れる。

増資で調達した約20億円を生かして、コアと新規の両事業強化や、M&A（企業の合併・買収）による事業拡大など、さらなる成長をめざす。

引き続き同社の経営に当

同時に、既存株主から株式を取得し、発行済み株式の約32%を所有する筆頭株主になった。取得目的は「経営参加を伴う長期保有」としている。

ジェイ・ブリッジは、2005年6月に新株予約権を取得し、支援を始めた。ことし5月末時点では、300万株を所有する筆頭株主だった。その後、一部を譲渡したほか、増資で発行済み株式